レポート

日本の農業に革命を

ベルグアース株式会社
株式会社　山口園芸
代表取締役　**山口　一彦**

1　農業との出会い

農業との出会いは、生まれてすぐと言っても過言ではないと思います。

農家の長男として生まれ、溢れるほどの自然に恵まれた環境に育った私が、農業を職業とすることはごく自然なことでした。今さらながら記憶を遡ってみると、私が農業を職業にしたいと思ったのは、まさに生まれた時からだったのです。

もちろん、大人になるに従い、また農業を取り巻く環境がどんどん厳しくなればなるほど、「農業に革命をもたらすのは俺だ」と思い込んでいたことは間違いありません。

当然の道として農業系の高校に進学し、親に迷惑を掛けないよう新聞配達、皿洗い、お中元・お歳暮配りなどで自立の道を歩みました。

優勝劣敗の経済原則、すなわち「優れているものは勝つが劣っているものは敗れる（農業に即して言えば、土地所有の優劣、栽培規模・エリアで勝負が決まる）」ということを学べば学ぶほど、それまでの米・麦・野菜といった一般的な枠組みの中でいくら考えてみても無理がありました。新しい農業への取り組みが必要であることを痛感し、現在、経営理念となっております「農業に革命を」を志した次第です。

先ずは、当時最先端の近代的農業経営を学ぶため、兵庫県で切花「菊」栽培を大規模に手掛け成功されている農家様に住み込まさせていただき、９ヶ月間、まるで丁稚奉公のように１日の休みもなく働きながら、必死の思いでその栽培技術を学びました。そして、何よりも「売る」ことの大切さを骨身に染みるほど叩き込まれたことを鮮明に記憶しています。

これから何度か「出会い」「学ぶ事」の大切さについて触れると思いますが、もう一つ念頭においていただきたい言葉があります。それは「運」とか「運命」と言われるものです。何とも幸運な出会いと学ぶ姿勢があったからこそ、農業を天職とした現在の自分があるのだと思っています。

2　挫折を乗り越え、接木苗業界への転進

故郷である津島町（愛媛県）に意気揚々と引き帰った私は、早速、両親の農業とは違ったそれを目指し、菊を主体とする花の栽培に取り組みました。当時は、高度成長が続き、人々の生活も随分豊かになった頃です。

１年目にしては計画以上の収入を得ることができたばっかりに、２年目、規模拡大に着手しました。ところが、品質、収入ともに散々たるものでした。「なん